

経営改善目標（目標期間：令和 8 年度～令和 12 年度）

(法人名) 公益財団法人神奈川文学振興会

1 法人の使命・担うべき役割

当財団は、1984 年の神奈川近代文学館の開館以来運営を担ってきた。文学館の使命を次のように考え、開かれた文学館として引き続き活動していく。

① 文学資料の収集・保存と公開（言葉の記憶装置として）

- ・ 神奈川県ゆかりの近代文学を中心に資料を収集、適切に管理した収蔵庫で保存し、データベースの整備により閲覧などの利用を促進する。
- ・ デジタルアーカイブの Web 公開により文学への関心を高める。

② 展覧会の開催（文学者の息吹に触れる場の創出）

- ・ 文学愛好家へ豊かな知的体験を提供するだけでなく、わかりやすく魅力的な展覧会を開催することで多くの人々にとって文学への入り口となることを目指す。
- ・ アニメやコミックなど、多彩なジャンルとのコラボレーション企画や、若い世代に喜ばれるグッズの販売を積極的に行う。
- ・ その一方で集客規模が小さくても、収蔵資料を活用した社会的に意義のある展覧会も開催する。

③ イベントの開催と学校・地域との連携（共に文学について考え楽しむ拠点として）

- ・ 専門性が高い講演会だけではなく、親しみやすい内容のトークイベント、朗読会、映画会などを開催し、多くの人が文学を楽しむことができる場を創出する。参加者同士が交流できる読書会や教室形式の講座も企画する。
- ・ 県高等学校文化連盟図書専門部と連携したビブリオバトルなどのイベントの開催、学校図書室へのパネル文学展の貸し出し、団体観覧の学生へのレクチャーなどにより学校教育と連携する。
- ・ 地域のブックフェスタや書店でのイベントの共催、文学愛好団体との交流により地域との連携を深める。

文学館の使命を遂行するために、次の指針により活動する。

① 開かれた文学館の実現（多くの様々な人たちのために）

- ・ 活動のジャンルを増やし文学の間口をひろげる。
- ・ 快適に過ごしていただくための施設づくりときめ細かいサービスをこころがける。

② 専門性の保持

近代文学の資料館・専門図書館として、展示、資料整理、公開などあらゆる面で、専門家の要求に応え、期待される水準を維持する。

③ 振興会ならではの活動（文学と文字・活字文化振興のために）

現役の文学者を中心に構成された理事会・評議員会からの助言を支柱とし、文学をめぐる情勢にアンテナを張り、文学者と読者双方の立場から、文学と文字・活字文化の振興のために何ができるかを考え活動する。

2 県が法人に期待する役割

県では、文化芸術振興条例において、文学を含んだ文化芸術の振興や県民の文化芸術活動の充実を図ることとしており、文学の振興に当たっては、当法人を本県における文学振興の中心的な組織として位置付けている。今後も当法人の設立目的である県にゆかりのある近代文学及び児童文学に関する資料を中心に、各種資料の収集、保存、展示等の役割を担っていくことを期待するとともに、コロナ禍以降伸び悩んでいる展覧会、会議室等の利用者増加へ向けた取組により一層力を入れていくことを期待している。

また、当法人がこれまでの文学館運営で培ってきた事業ノウハウと人的ネットワークをもとに、今後も県民の文学に親しむ機会の充実、さらには、SNS等での積極的な情報発信、広報を強化し、来館者の裾野を広げることも期待している。

3 法人運営における現状の課題

(1) 利用者数について

展覧会入場者数については、新型コロナウイルス感染症の影響からいったん回復したが令和7年度は減少傾向にある。要因としては酷暑期間中の来館者の減少があり、展覧会の会期を検討する必要がある。また、集客があまり期待できないものの、県民への収蔵資料の展覧や学術的に開催すべき展覧会についても、達成すべき年間観覧者数の観点から開催時期について検討したい。さらに、知名度が低くとも展覧会の切り口、広報の方法により集客力を高めることもできる。文学館の展覧会をきっかけに、知名度の低い作家の再評価を進め、読者を増やすことにも尽力したい。夏期の企画については、より活動的な年齢層に訴求できる展覧会やイベントを検討する必要がある。

館内での展示やイベントだけでなく、Webを通じても文学の魅力を発信することで、県民の心に潤いをもたらし、豊かな暮らしを実現したい。会議室や閲覧室利用者にも質の高いサービスを提供し、集いの場としての機能を果たす必要がある。

会議室利用者数は、新型コロナウイルス感染予防のための休館(利用休止)に加え夜間利用の制限などにより減少し、回復が遅れている。このため、令和7年度にはWi-Fi等を整備し、広報を強化することで、利用促進を図った。今後も利便性の向上を図り利用を促進したい。

(2) 若い世代を対象とした取組の強化について

スマートフォンの普及により活字離れが進み、文学館が担う文学の振興と文化の発展に寄与するという使命はこれまで以上に重要となっている。

生涯学習施設として高齢者へのサービスに加え、活字離れが著しい若い世代や現役世代に対しても積極的に働きかけ、来館者の裾野を広げるとともに、文学と読書の振興につなげていく必要がある。

若者や現役世代の文学愛好者の動向を踏まえ、関心の高い作家やジャンルに焦点を当てた展覧会を企画するとともに、アニメやコミックなどとのコラボレーションを通じて、文学への関心を喚起したい。

また、幼児期からの読書体験を育むことも重要な課題である。児童文学や絵本作家の展覧会を開催し、紙芝居やお話会など、子ども向けのイベントを継続的に実施したい。

さらに、学校など教育機関との連携を強化し、団体観覧の際には展覧会の観覧に加えて、文学館の役割や機能についてのレクチャーを行うことで、若者に文学館を身近に感じてもらえるよう努めたい。

(3) 施設設備の維持管理について

文学館は築41年を経過し、施設設備の多くの部分で更新が必要な時期を迎えている。県営繕工事等が円滑に実施できるよう、現場からの視点や蓄積した情報を県と共有するとともに、利用者の安全を最優先に、設備等の維持管理に努める。特に、貴重な所蔵資料の保存環境を最適な状態に保つために不可欠である空調関連機器等については、修繕工事の早期実施を求めている。

(4) 外部資金の獲得

より積極的な事業展開を図るため、「神奈川近代文学館を支援する会」の会員拡大により外部資金の確保に努める。支援する会の年会費(寄付)は1口1万円で、例年およそ100名ほどの会員が入会している。今後、会員数を増やすために、文学館の活動内容をさまざまな機会を通じて広く発信し、寄付への協力を積極的に呼びかけていくことが重要である。

4 経営改善目標

【県民サービスの向上等】

(総括的目標)

神奈川県文化芸術振興条例に掲げられた「真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな県民生活の実現」および「個性豊かで活力に満ちた地域社会の発展」を目指し、展示観覧や行事参加、資料閲覧、会議室利用など、多様な県民ニーズに応じた利用促進を図る。特に活字離れが進行する社会情勢を踏まえ、子どもや若い世代が文学に親しむ機会を拡充し、より多くの方に足を運んでいただくための取組をさらに進める。

来館による直接的な利用にとどまらず、Webコンテンツやパネル文学展の貸し出し、館外で行う文学イベントへの協力などさまざまな形で事業を展開する。

No. 1 利用者数（展示観覧者/閲覧室利用者/イベント参加者/オンラインコンテンツ視聴者/館外イベント参加者/会議室利用者）（単位：人）

令和7年度 実績(見込)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
72,500	74,000	75,000	76,000	77,000	78,000
(内訳)					
展示観覧者、閲覧室利用者、イベント参加者	37,800	38,100	38,400	38,700	39,000
オンラインコンテンツ視聴者、館外イベント参加者	22,300	22,900	23,500	24,100	24,700
会議室利用者	13,900	14,000	14,100	14,200	14,300
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	館内での展示やイベントだけでなく、Webを通じても文学の魅力を発信することで、県民の方々の心に潤いをもたらし、豊かな暮らしを実現する。会議室や閲覧室利用者にも質の高いサービスを提供し、集いの場としての機能を果たす。				
目標値の設定根拠	令和3年度からの実績平均(令和7年度は見込み)を考慮し、令和12年度には計78,000人に達するよう目標設定した。				

No. 2 文字活字文化振興の観点からの若い世代へのアプローチ

若い世代向けのイベント、キッズイベント、パネル展の参加者数（単位：人）

令和7年度 実績(見込)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
9,100	9,500	10,000	10,500	11,000	11,500
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	活字離れが著しい若い世代に対して積極的に働きかけ、来館者の裾野を広げるとともに、文学・文字文化の振興につなげていく。紙芝居やお話会など、子ども向けのイベントを継続的に実施することで幼児期からの読書体験を育む。				
目標値の設定根拠	令和3年度からの実績平均(令和7年度は見込み)を考慮し、令和12年度には11,500人に達するよう目標設定した。				

No. 3 「神奈川近代文学館友の会」の会員数（単位：人）

令和7年度 実績(見込)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
895	920	940	960	980	1,000
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	開館2年目に創設した友の会には、文学愛好者が集い、文学散歩や読書会などの行事を通して会員同士の親睦も深め、文学館のリピーターとなっている。若い世代の会員を増やすための広報も行う。				
目標値の設定根拠	令和3年度からの実績平均(令和7年度は見込み)を考慮し、令和12年度には1,000人に達するよう目標設定した。年齢を理由に退会される例も年々増加しているため、新たに若い世代の入会を促すことで会員数を維持したい。				

No. 4 SNS などを利用した情報発信

公式HP、note アクセス数、X、インスタグラム、Facebook のフォロワー数（単位：件）

令和7年度 実績(見込)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
295,800	296,000	297,000	298,000	299,000	300,000
(内訳)					
公式HP、note ア クセス数					
285,400	285,500	286,000	286,500	287,000	287,500
X、インスタグラ ム、Facebook フォ ロワー数					
10,400	10,500	11,000	11,500	12,000	12,500
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	HP や SNS を通じ館の情報を発信し、新たな利用者層を開拓する。				
目標値の設定根拠	令和3年度からの実績平均(令和7年度は見込み)をもとに目標設定した。令和6年度から Instagram、令和7年度には Facebook を開始しており、今後フォロワー数増加に努め、令和12年度には計30万件に達することを目標としたい。				

【収支健全化に向けた経営改善】

(総括的目標)

今後も経費を抑制しつつ県民のニーズに応じた展覧会やイベントを開催し、幅広い層の県民に文学の魅力を広く伝え、「文学および文字・活字文化振興」の使命を果たすため、利用者増による利用料金収入、事業収入の増を目指したい。

No. 1 利用料金収入（単位：千円）

令和7年度 実績(見込)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
9,586	16,294	16,296	16,298	16,300	16,302
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	安定的な事業予算の確保を図る。				
目標値の設定根拠	条例改正により令和8年4月から会議室利用料金、常設展の観覧料上限が変更となることを勘案して設定した。				

No. 2 事業収入（単位：千円）

令和7年度 実績(見込)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
7,290	6,630	6,632	6,634	6,636	6,638
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	安定的な事業予算の確保を図る。				
目標値の設定根拠	各イベントでの受益者負担を考慮して設定した。				

No. 3 「神奈川近代文学館を支援する会」における寄付および小口寄付の額（単位：千円）

令和7年度 実績(見込)	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
1,410	1,410	1,420	1,430	1,440	1,450
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	財団本部自主財源の確保を図る。				
目標値の設定根拠	令和3年度からの実績平均及び令和7年度見込みを考慮し、令和12年度には過去5年（令和3～7年度）実績値を上回る145万円に達するよう目標設定した。				

5 その他特記事項

神奈川近代文学館に係る指定管理期間に合わせ、今回の経営改善目標は令和8年度から令和12年度までを目標期間として設定している。施設修繕工事に伴う休館を要する場合は、利用料金収入、事業収入の減収等について、県との協議を希望する。